

事業コード	H19-建-継-10		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)湯沢雄物川大曲線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	大仙市 角間川		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H08 ~ H21 (14年)		総事業費	15.5億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長 L = 1,820m、幅員 W = 6.5(12.0)m						
事業の立案に至る背景	当該区間は、人家連担地域であるが道路幅員が5mの隘路となっており、生活道路の整備による地域住民の安全性を確保し、大仙市の道路ネットワークの強化による地域間交流と連携を促進するためバイパス整備を行うものである。						
事業目的	市街地の交通円滑化の推進(混雑度4.84) 道路の防災対策・危機管理の充実(第3次緊急輸送路)						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,546,000	1,546,000	0			
	経費内訳	工事費	564,000	564,000	0		
		用補費	805,000	805,000	0		
		その他	177,000	177,000	0		
	財源内訳	国庫補助	850,300	850,300	0		
		県債	660,000	660,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源		35,700	35,700	0			
事業内容	調査・設計 用地買収補償 改良工、舗装工	調査・設計 用地買収補償 改良工、舗装工					
事業の進捗状況	用地買収が今年度完了する見込みとなっており、現在改良工に着手している。 平成19年度末で事業の進捗が9割を超える見込みとなっている。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に旧大曲市外7町村が合併し、大仙市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県道改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	68.8 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	69.5 %					
達成率 b/a	101.0 %		把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」が3箇所あり、幅員も5mと狭隘で混雑度も高くなっている。 現道は旅行速度も低く、通学路指定区域であり早急な改良が必要である。	12点
緊 急 性	道路交通量調査の動向では増加傾向(H11:1,001台/日 H17:1,052台/日)にあり、併せて狭隘で歩道もなく冬期交通にも支障や危険を伴っている。	7点
有 効 性	緊急輸送路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は2.73であり効率性は高い。 計画日交通量も7,116台/日となっている。	15点
熟 度	計画延長1,820mのうち、H14まで917mが部分供用済みであり、残りの工区についても改良工を進めている。 平成19年度末で事業の進捗が9割を超える見込みとなっている。	20点
判 定	ランク () 救急医療施設へのアクセス道路でもあり、整備後の有効性は高いことから引き続き実施すべきである。	84点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H19-建-継-10)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (大仙市 角間川)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	0	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	3	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	0		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	7	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	0	
		なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	15	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	20	
合計			100	84	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		